

# 上矢作地区農業振興基本計画

## (上矢作地区 人・農地プラン)

### 計画策定委員

座長	近藤 明德			
委員	夏目 廣美	梅本 信枝	伊藤 清	安藤 利寛
	安藤 常雄	安藤 菊男	石川 義朗	梅本 広市
	塚田 尊司	石川 右木子	中根 悟	山田 哲
	中根 弘幸	小木曾 辰巳	安藤 太陽	堀 政子

### 事務局

J A 東美濃農業協同組合 上村支店  
J A 東美濃農業協同組合 恵南アグリセンター  
恵那市役所 農政課

計画策定（当初）		平成	23年	4月	1日
計画期間（中期）	始：	令和	3年	4月	1日
	至：	令和	13年	3月	31日
更新年月日		令和	2年	10月	29日

上矢作地区農業振興協議会

# 第1 地区農業の現状

## 1 農業生産の動向

### (1) 地区農業の取組み経緯

現在、上矢作町の農業は稲作を中心とした第二種兼業農家が大半で、高齢化率50%を超え農地を守ることが難しい状況下、耕作放棄地、イノシシ・サル・鹿等による獣害が増加し農作物、農地や水路が荒らされ耕作意欲が減退している状況であるため、地域ぐるみの獣害対策が必要である。

### (2) 主要品目の生産状況

水稲	60ha	うちコシヒカリ	50ha
トマト	1ha		

## 2 農業構造の動向

### (1) 担い手の状況

高齢化による後継者不足が深刻な状況ではあるが、トマト・イチゴ・栗・養鶏・和牛等において、若い農業者による経営が行われつつある。そのような状況下令和2年2月に、農事組合法人福寿の里が設立されたことにより組織強化、労働不足の解消に貢献し、今後も農地利用権設定によって、農地の集約をしていくことで継続的な農業経営が図られている。

### (2) 農地の利用状況

平成7年度に、町全体で圃場整備が実施されたが、一農家あたりの耕作面積が狭いことに伴い、自己保全管理田や調整水田等の不作地が多く見受けられたため、農事組合法人福寿の里により、飼料用米作付等により不作地の解消に取り組んでいる。

### (3) 農村社会

四季を通じて自然に恵まれた典型的な中山間地域であるが、季節ごとに交流施設等へ都会から多くの客が訪れる。しかし、面積の98%を山林が占めており農業後継者の減少により高齢化が一層進みつつある。

# 第2 地区農業の問題点・課題

## 1 地区の農業のあり方

高齢化に伴う後継者不足・耕作放棄地の増加傾向に伴い、今後大切な農地をどのようにして守っていくかが大きな課題である。

平成30年度から、国からの生産調整配分が廃止され、農政・農業情勢が大きく変化し、今後個人での高額な機械導入が困難な状況の中で、農業経営などを継続することが難しい状況であるが農地集積を促進し、効率的な農作業、部分委託により経費を削減し農地の保全をすることが課題である。

## 2 農地の有効活用

平成7年に上矢作地区の農地については圃場整備が行われたが、耕作者の高齢化にともない、獣害や、生産条件の悪い圃場では不作付け地となりつつある。そのような状況の中、農地をどう活用するかが重要な課題である。

## 3 人材の育成確保

現在は、農事組合法人福寿の里では、定年退職者により作業オペレーターが確保されている。今後も作業委託依存度が一層高まることが予想される。そのため経営基盤強化と作業オペレーターの確保が重要な課題である。

## 4 都市と農村との交流促進

上矢作町には、モンゴル村・コテージかわせみ・コテージ越沢等の宿泊施設、大船山の風力発電等数多くの観光施設がある。アドニスゴルフ場・道の駅「ラフォーレ福寿の里」来場者へ農産物が販売されている。こうした拠点をうまく組み合わせ、上矢作町の農産物をPRすることが重要である。

## 5 生産・加工・流通体制の整備

上矢作町では、高齢化率が非常に高いが元気な高齢者がたくさんみえ、自家用野菜を生産されている。しかし、高齢化にともない販売するところまで出荷をすることが困難になってきている。

ふくちゃん工房の旧上矢作学校給食センターの継続活用による特産品研究開発、地域特産品生産を行っているが、原材料となる農産物の確保が出来なくなっているため必要な農産物の生産供給の体制づくりが今後の課題となってきた。

また、上矢作町の特産物であるこんにゃく生産が減少してきているが維持拡大することも大きな課題である。

## 6 農村環境の整備

里山の田園風景・環境を損なう荒廃状況も一部みられることから、荒廃農地の利活用については組織的な対応が必要となっている。そのため農業委員・農地利用最適化推進委員による農地パトロールを実施している。また、中山間地域等直接支払制度の活用により、地域挙げての農地保全活動の取組を行っているが将来的に実施していけるかが懸念されている。イノシシ・サル・鹿等による獣害対策を地域で行っているが経費が増大している。

## 7 地区の現状把握

### (1) アンケートの実施

地区の農地利用に関して現状を把握するため、定期的にアンケートを実施する。主な内容は、耕作者の年齢、所在不明農地の確認、耕作状況、担い手への貸付けの希望の有無、5年先・10年先の耕作予定、後継者の有無、中間管理機構の利用希望の有無、農地集約化の可否、今後の耕作拡大の有無等について調査を実施した。今後は、必要に応じて調査項目を変更する。

(2) アンケートの実施時期 1回目 令和元年(最新)

(3) アンケートの結果

ア	地区内の耕地面積	212.3ha
イ	アンケート調査に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	131.1ha
ウ	地区内における65歳以上の農業者の耕作面積の合計	71.6ha
	(ア) うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	37.2ha
	(イ) うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	7.32ha
エ	地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	26.0ha

(4) その他 別紙、アンケート調査結果(グラフ)、アンケート調査結果(地図)

## 第3 地区農業・農村の活性化方策

### 1 農業農村の活性化の目標(柱立て)

### 2 推進方策

#### (1) 組織

上矢作地区農業振興協議会が主体となり「農業・農村の活性化」目標に向けての取組。

また、関係機関(県農林事務所・恵那市役所・JA)の指導、下記のメンバーでの組織強化を行い、目標達成に向けて活動する。

- ・農業委員及び農地利用最適化推進委員
- ・自治区を代表する者
- ・生産組織を代表する者
- ・営農組織を代表する者
- ・認定農業者
- ・鳥獣害対策協議会を代表する者
- ・地域農産物加工・販売組織代表者

#### (2) 農地

ア 耕作放棄地の拡大防止策として、利用権設定や農作業委託の活用により農事組合法人福寿の里や地域担い手に農地集積を推進し、里山を守る為の鳥獣害対策に取り組む。

イ イノシシ・サル・鹿等による獣害を防ぐ為、里山の環境を整備し、農地と山の区別をすることで獣害を防止する。また、獣害被害にあいにくい作物の研究・普及を行うことで農地を有効活用する。

ウ 固定・移動式捕獲檻の活用、括り罠による捕獲で頭数調整の実施を行う。

#### (3) 人材

ア 退職者の就農支援や農事組合法人福寿の里への参画を促進する。

イ 新規就農希望者や農業研修生の受け入れ、トマト研修農場を経て、上矢作町に定住してもらえる地域づくりを行い農業生産力の維持を目指す。

#### (4) マーケティング

ア どのような商品が求められているかを調査行い、そのデータを農業者に提供して道の駅「ラフォーレ福寿の里」での多品目農産物販売を拡大する。

イ レストランでの食材提供を促進する。

#### (5) 生産・加工・流通

ア 野菜の多品目生産で売れる野菜作りを行う「一戸一坪野菜栽培事業」（野菜栽培マニュアル・栽培講習会・野菜出荷組織）で計画的な作付け、消費者が求める農産物の展開をすることで、道の駅「ラフォーレ福寿の里」のリニューアルにより、多くの来場者に地元農産物を提供し、収入を得ることで、生きがいを生み出す。

イ 道の駅「ラフォーレ福寿の里」への農産物集荷体制の構築、加工施設ふくちゃん工房へ農産物供給するとともに品質維持のため栽培指導を行う。

ウ 獣害駆除によるイノシシ・鹿のジビエ加工施設の開設を検討。

エ 地元産大豆使用の三作みそや米麴みそで食の安心安全をPRし販売拡大を行う。

#### (6) 農村環境

ア 里山の田園風景・景観を維持し、水田の多面的機能を確保する。

イ 中山間直接支払制度の活用により、地域上げて農村環境の保全及び集落機能の維持管理活動に取り組む。

ウ 現在上矢作町にある観光施設の一部様態変更を株式会社福寿の里上矢作と協議し、オートキャンプ場の開設を検討する。田植えや稲刈りの農業体験を実施することで都市住民との交流を図る。

エ 上矢作地区鳥獣害対策協議会を主体として国の補助事業による獣害対策を検討する。

#### (7) 人・農地プランの周知、活用

地区農業振興基本計画（人・農地プラン）を地域の農業の方針を示すものとして、農業振興協議会が中心となり、担い手や地域の耕作放棄地の解消などの地域農業に関することを定期的に協議し、見直しをする。また、定期的に農地利用に関するアンケートを実施し、地域の農業の状況を把握する。また、当計画を地域に周知し、地域と一体となって計画を推進する。

## 第4 事業実施計画

### 将来像（キャチフレーズ）

- 1 農村と都市の交流促進でキラッと輝く上矢作農業
- 2 「天・人・地」ミニ産地育成でキラッと輝く福寿の里

### 農業・農村活性化の目標

- 1 耕作放棄地の解消・農地活用、鳥獣害対策。
- 2 営農組織の経営基盤強化と担い手の育成・確保。
- 3 売れる農産物・加工品開発と販路拡大。

	事業名	事業内容	事業効果	事業主体	事業年度	概算事業費
9	1	鳥獣害対策	農地を獣害から守る 農業収入の安定確保 計画的な生産	農業振興協議会 鳥獣害対策協議会 自治連合会	令和3年～ 順次整備	
	2	中山間地域直接支払制度 農地集積	耕作放棄地の解消 農村環境保全 集落機能の維持	農業振興協議会 農地集落協定	令和3年～ 順次整備	
	3	人材育成	新規就農者の確保 定住による農業生産の維持	農業振興協議会 各生産協議会	令和3年～ 7年度	
	4	野菜栽培講習会	通年栽培体系の研修 新規栽培者講習会	農業振興協議会 道の駅「ラフォーレ福 寿の里」	令和3年～ 7年度	

別紙1 人・農地プラン

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
恵那市	上矢作地区	令和 2 年 10 月 19 日	令和 2 年 10 月 19 日

1 対象地区の現状

(1) 地区内の耕地面積	212.3 ha
(2) アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	131.1 ha
(3) 地区内における65才以上の農業者の耕作面積の合計	71.6 ha
ア うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	37.2 ha
イ うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	7.2 ha
(4) 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	26.0 ha
(備考)	

2 対象地区の課題

高齢化に伴う後継者不足・耕作放棄地の増加傾向に伴い、今後大切な農地をどのようにして守っていくかが大きな課題である。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

今後個人での高額な機械導入が困難な状況の中で、農業経営などを継続することが難しい状況であるが農地集積を促進し、効率的な農作業、部分委託により経費を削減し農地の保全をする

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

耕作放棄地の拡大防止策として、利用権設定や農作業委託の活用により農事組合法人福寿の里や地域担い手に農地集積を推進し、里山を守る為の鳥獣害対策に取り組む。

新規就農希望者や農業研修生の受け入れ、トマト研修農場を経て、上矢作町に定住してもらえる地域づくりを行い農業生産力の維持を目指す。

野菜の多品目生産で売れる野菜作りを行う「一戸一坪野菜栽培事業」（野菜栽培マニュアル・栽培講習会・野菜出荷組織）で計画的な作付け、消費者が求める農産物の展開をすることで、道の駅「ラフォーレ福寿の里」のリニューアルにより、多くの来場者に地元農産物を提供し、収入を得る。

里山の田園風景・景観を維持し、水田の多面的機能を確保する。また、中山間直接支払制度の活用により、地域上げて農村環境の保全及び集落機能の維持管理活動に取り組む。

## 別紙2 今後の地域の中心となる経営体

### (1) 担い手 (認定農業者等)

No	属性	経営体 (氏名)	申請時		今後の農地利用計画		備考
			経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数等)	経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数等)	
1	認定 農業 法人	(農) 福寿の里	水稲 飼料用米 露地野菜	0.0 0.0 0.0 ha	水稲 飼料用米 露地野菜	20.5 4.5 0.2 ha	
2	認定 農業 者	梅本 広市	夏秋トマト 菌床シイタケ	0.38 3,000ブロック ha	夏秋トマト 菌床シイタケ	0.38 3,000ブロック ha	
3	認定 農業 者	安藤 太陽	採卵鶏	8,000 羽	採卵鶏	8,000 羽	
4	認定 農業 者	中根 悟	繁殖和牛 肉用仔牛	28 20 頭	繁殖和牛 肉用仔牛	40 30 頭	
5	認定 農業 者	近藤 邦昭	育成鶏	50,000 羽	育成鶏	60,000 羽	
6	認定 農業 者	中根 義治	繁殖和牛 肉用仔牛 育成牛 飼養牛 育成牛	60 60 8 8 8 頭	繁殖和牛 肉用仔牛 育成牛 飼養牛 育成牛	50 50 6 6 5 頭	
7	認定 農業 者	花村 一郎	夏秋トマト 野菜苗 水稲	0.25 0.03 0.09 ha	夏秋トマト 野菜苗 水稲	0.25 0.03 0.37 ha	
8	認定 農業 者	石川 右木子	夏秋トマト イチゴ	0.50 0.00 ha	トマト イチゴ	0.60 0.08 ha	
9	認定 農業 者	山田 哲	夏秋トマト	0.15 ha	夏秋トマト	0.20 ha	
10	認定 新規 就農 者	垣内 裕輝	夏秋トマト	0.00 ha	夏秋トマト	0.25 ha	

### (2) 地域の担い手 (認定農業者以外)

No	属性	経営体 (氏名)	策定時 (R2)		今後の農地利用計画		備考
			経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数)	経営内容 (作目)	経営規模 (ha、頭数)	
1	個人	塚田 尊司	栗	- ha	栗	- ha	
2	個人	堀井 登	栗	- ha	栗	- ha	
3	個人	安藤 あけみ	栗	- ha	栗	- ha	
4	個人	大島 金幸	トマト・水稲	- ha	トマト・水稲	- ha	
5	個人	小木曾 辰己	水稲	- ha	水稲	- ha	
6	個人	後藤 順一	蒟蒻	- ha	蒟蒻	- ha	

# 農地の利用に関するアンケート

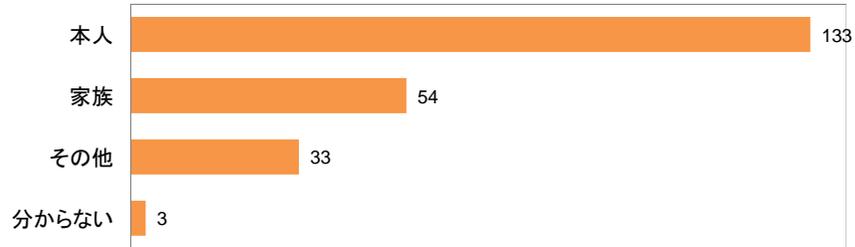
恵那市 上矢作 地区

アンケート実施期間: 令和元年10月15日～令和2年3月10日

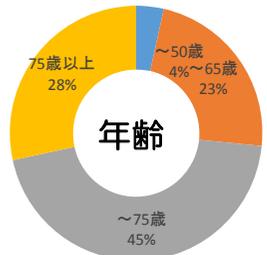
農地面積 2,123,003 回答面積 1,311,734 回答率 61.8%

対象者数 288 回答数 210 回答率 72.92%

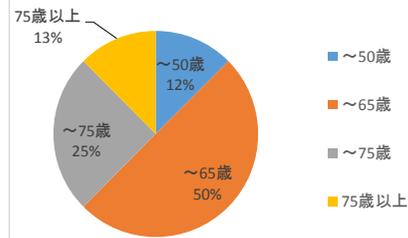
## 問1 所有農地で主に農業に従事している方はどなたで年齢はおいくつで…



### 問1 農業従事者の年齢



### 問2 農業従事者の年齢



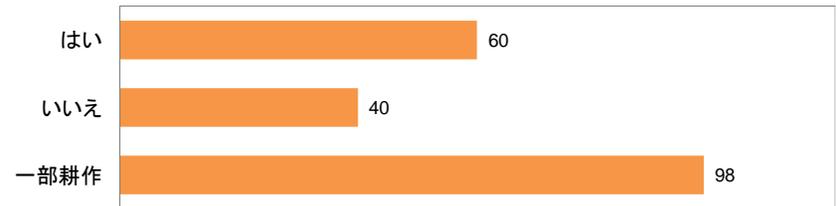
## 問2 問1で【その他】に○を記入された方は、誰が農業に従事していますか



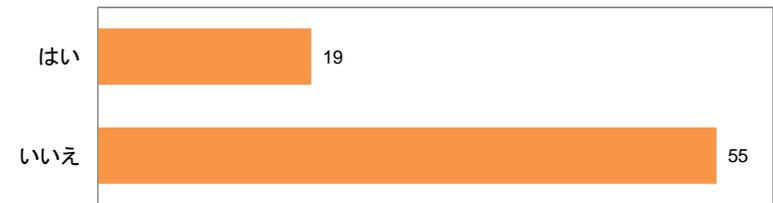
## 問3 所有する農地の場所を把握していますか



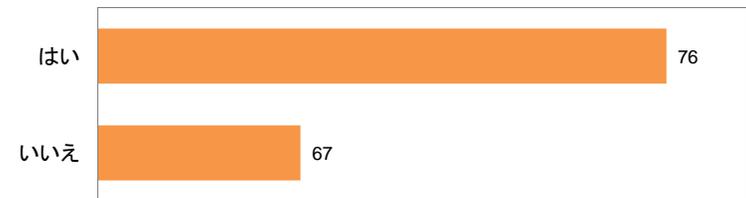
## 問4 所有する農地全てを耕作していますか



## 問5 問4で【はい】に回答された方は、自己所有地以外の農地も耕作していますか



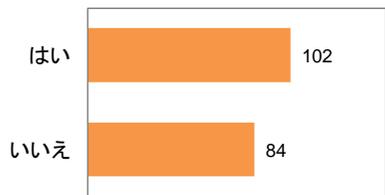
## 問6 問4で【いいえ・一部耕作】に回答された方は、現在、耕作していない農地の貸付を担い手に希望されますか



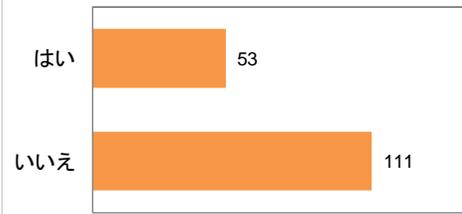
■問7 問6で【いいえ】と回答された方は、貸付しない理由をお答えください

- [理由]  
水がないため耕作不能  
耕作条件が悪いため

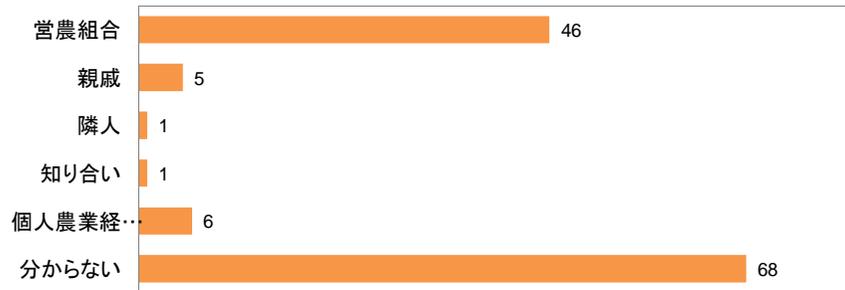
■問8-1 5年先も継続して自ら耕作できますか



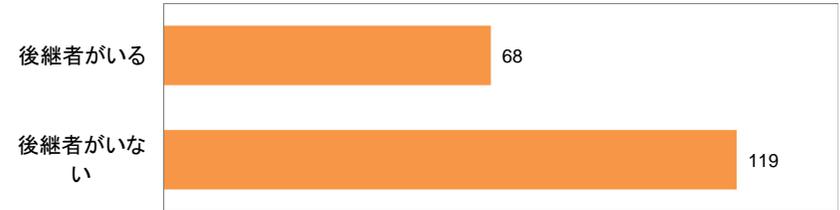
■問8-2 10年先も継続して自ら耕作できますか



■問9 問8で【いいえ】に○を記入された方は、誰が耕作しますか



■問10 農業後継者はいますか

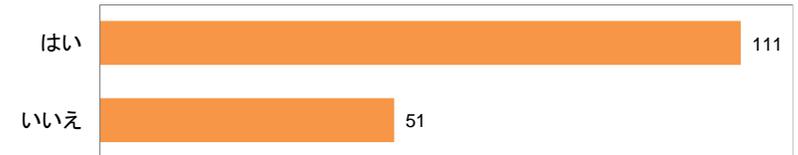


■問11 耕作できなくなったときに、中間管理機構を利用して農地を預けたいですか



[いいえ]の理由

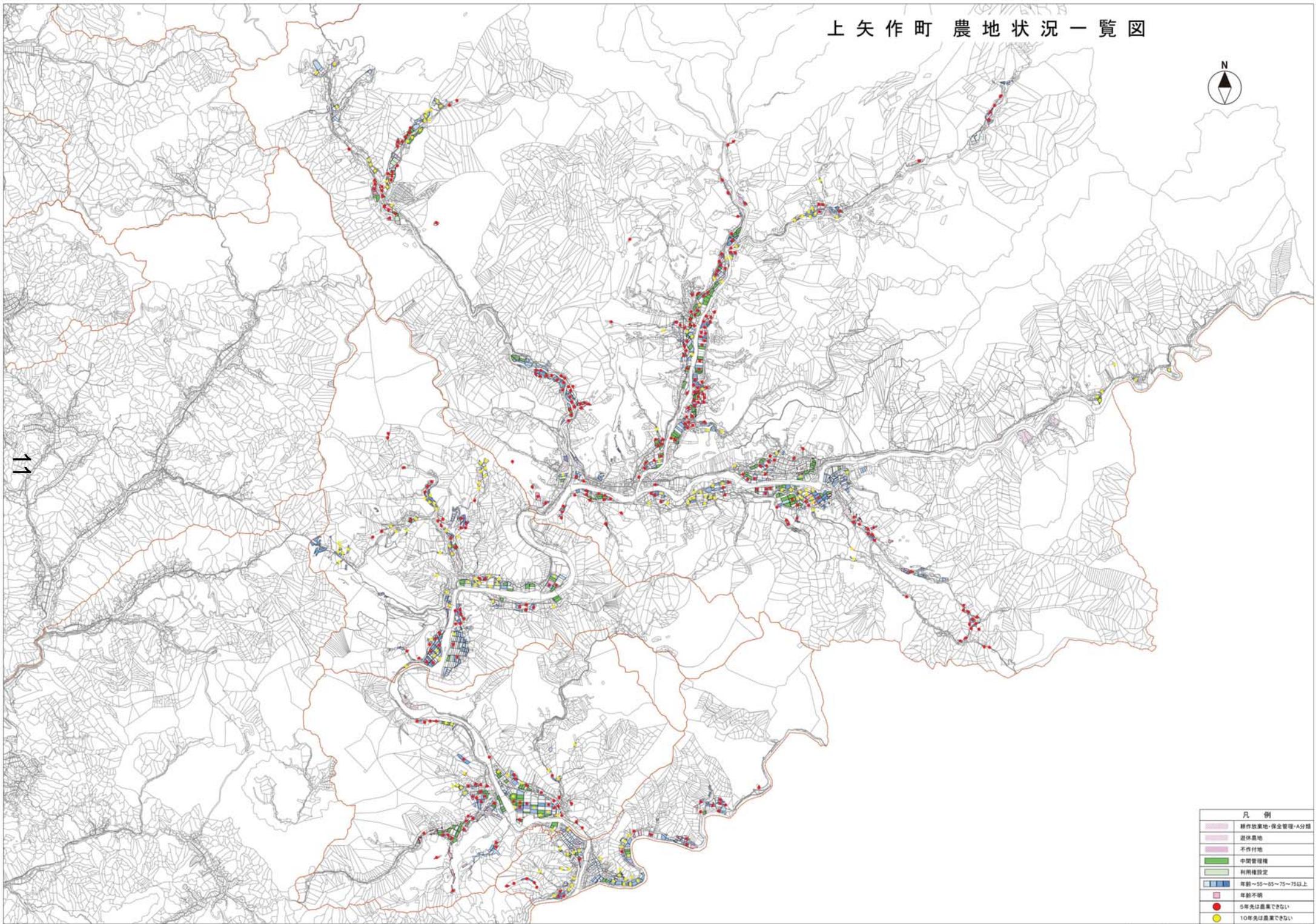
■問12 農地の集約化は可能ですか



■問13 農地を借りて耕作面積を拡大したいですか



# 上矢作町 農地状況一覽図



11

凡例	
	耕作放棄地・保全管理・A分類
	遊休農地
	不作付地
	中間管理種
	利用種設定
	年齢～55～65～75～75以上
	年齢不明
	5年先は農業できない
	10年先は農業できない

